

令和6年1月 岩手県教育委員会定例会 会議録

- 1 開催日時
開会 令和6年1月15日(月)午後1時30分
閉会 令和6年1月15日(月)午後1時55分
- 2 開催場所
県庁10階 教育委員室
- 3 教育長及び出席委員
佐藤 一 男 教育長
新妻 二 男 委員
島山 将 樹 委員
宇部 容 子 委員
小野寺 明 美 委員
泉 悟 委員
- 4 説明等のため出席した職員
菊池教育局長、坂本教育次長兼学校教育室長
西野教育企画室長兼教育企画推進監、武藤義務教育課長、菊池保健体育課総括課長
教育企画室：菊池主任主査、高橋主事(記録)
- 5 会議の概要
 - 第1 会期決定の件
本日一日と決定
 - 第2 事務報告1 令和6年度県立一関第一高等学校附属中学校入学者選抜検査の実施について(学校教育室)
別添事務報告により説明
 - 第3 事務報告2 令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について(保健体育課)
別添事務報告により説明

泉委員：平成30年度に小学校5年生だった子供たちが全国17位となっていますが、その子供たちが令和4年度に中学校2年生になり、仮に全国2位になったとして、その理由を解明するための同一学年での追跡調査や分析をしているのか教えてください。

加えて、体力合計点に関して、小学校では50点台だが、中学生では40点台になるのはなぜか教えてください。

菊池総括課長：小学5年生から中学2年生までの比較については、正式に調査等は行っておりませんが、各事務所と会議等を複数回開き、それぞれの地域においてどのような取り組みが求められるかを継続的に話し合いながら、小学校から中学校における移行がスムーズに進むような形で取り組みを進めてきたのが大きな成果につながっていると考えます。学校単位、事務所単位で進めるのではなく、同じ意識のもとで継続的に進めてきたことが大きいと考えております。

また、体力合計点に関してですが、それぞれの学年や年齢によって得点表が違いますので単純には比較できないものとなっております。同学年同士なら比較可能ですが、他学年と男女では比較が難しいものでございます。

宇部委員：地域ごとや学校ごとではなく、県をあげて60運動を続けて、今年度からは60プラスプロジェクトが始まるということで、子供たちもいろいろな習慣がついてきていると感じております。これからも改善しながら取り組んでいただけないかということですので、よろしくお願いたします。

小野寺委員：体力の項目が全体的に全国と比べて高いレベルであるという印象は受けるのですが、運動が好きな子供、苦手な子供で二極化しているという印象があります。このあたりをどのように見ていらっしゃ

るのかお伺いします。

菊池総括課長：評価につきましては、ABCDEの5段階で評価をしております。Aが高配点なのですが、最近の傾向としましては、ABの児童生徒が若干少なくなってきていて、DEが増加傾向にあり、運動スポーツを苦手としている児童生徒が増えてきていると感じております。運動に興味関心を持ってもらうため、授業等では、体を動かすことの楽しさを実感してもらえるような工夫や仲間同士で協力して課題を解決するような取り組み等の授業改善が図られているという認識をしております。

新妻委員：8時間以上睡眠している子供が岩手県に多いということは非常に良いことだと思います。ただ1点気になることは、小学校から中学校へ進むと睡眠時間が激減するということです。例えば、小学5年生の男子だと7割が8時間以上睡眠しているという回答で、これが中学2年生になると半分以下になっています。この激減は中学生のどのような生活を反映しているのかが気になっています。全国的に子供たちのスクリーンタイムは増加傾向にありますが、岩手県の子供たちはそこまで増えているわけでもありません。睡眠時間が激減するのに、スクリーンタイムは大幅に増加しているわけでもないとなると、何がそうさせているのか疑問です。

菊池総括課長：その部分につきましては、調査や検証はしておりません。ただ、今回の調査は8時間以上というところで設定しております。他にも7時間以上6時間以上という回答結果もございましたので、総合的に確認していきたいと思っております。スクリーンタイムにつきましては、県内も含め全国的に年々増えてきていて、特に中学生で増えているという状況です。小学生も4人に1人は4時間以上をスクリーンタイムに費やしているという現状もございますので、このあたりも含めて、学校や家庭でのルールづくりも今後しっかりと進めていかなければいけないと考えております。

新妻委員：過去に、私も似たような生活調査をやったことあるのですが、そのときの岩手県の特徴としては、「何となく」という回答が1番多かったです。当時「何となく」の中身を知りたいと思い個別調査をしましたが、よく分からないまま終わりました。何もしない時間は決して悪いわけではないですが、朝食などいろいろなところに影響が出てくるとすれば、原因が気になるところではあります。

佐藤教育長：以前、中学校の生徒指導の先生が、「今の中学生は忙しい」という話をしていました。時間がないうちで、部活動や勉強、スクリーンタイムもそうかもしれませんが、帰ってから行くと大変な部分もあるかと思っております。

畠山委員：小学生と中学生では帰ってくる時間がだいぶ違います。中学生が帰ってきてから好きなことをしようとすると時間が足りないかもしれません。

新妻委員：分かりました。今の中学生の日常は、そういうことなのかもしれませんね。

会議結果の公表は、教育長に一任することとして議決された。